

豊川海軍 工廠展

豊川海軍工廠は、海軍兵器の生産を目的として、昭和13年に宝飯郡豊川町・牛久保町・八幡村にまたがって建設することが決定され、昭和14年12月15日に開庁しました。機銃やその弾丸、測距儀、双眼鏡、射撃装置などを生産し、機銃の生産に関しては日本最大の規模で、東洋一の兵器工場ともいわれました。工廠の発展は、人口の増加や各町村の結びつきを強めることとなり、豊川市の誕生・発展に大きな影響を与えました。しかし、昭和20年8月7日の米軍B29爆撃機などによる空襲で壊滅的な被害を受け、2,500名以上の方が犠牲となりました。

本展は、豊川市の歴史の中で重要な事象である豊川海軍工廠の歴史や戦争について知っていただくこと、毎年夏の時期に開催している展覧会です。今年も会場を文化会館に変更して、パネル展示を行います。



豊川海軍工廠の消火栓

海軍を表す「錨の上に波2本」のマークがはいています。

豊川海軍工廠 演劇作品 DVD上映会

入場
無料

豊川市文化会館・大会議室

8.7(木) 14:00開演 / 「残された夏へ」
東三河演劇祭企画作品

戦争の体験談をもとに伊沢勉氏の手・演出で2011年に上演された豊川海軍工廠の舞台作品が映像で甦る。忘れてはならない記憶と伝えたい思いが溢れています。

豊川海軍工廠の絵を募集しています

豊川市(文化振興課)では豊川海軍工廠の絵を募集しています。これは戦争経験者が高齢化し、戦争の体験を後の世代へ伝えることが難しくなっている状況の中で、実物資料だけでなく、記憶と経験を視覚的に捉えることができる絵が必要と考へて始めたものです。

皆さまのご協力をお願いいたします。

募集する絵

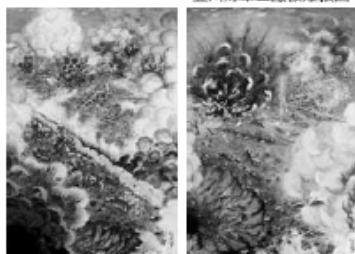
豊川海軍工廠に関連するものであれば、空襲に限らず何でも結構です。絵の種類、技量は問いません。規格は四つ切(54×38cm)程度とします。

提出期限

期限はありません。

その他

絵は寄贈していただけるものに限ります。著作権は桜ヶ丘ミュージアムとなります。



豊川海軍工廠被爆絵図

◎豊川海軍工廠のあゆみ

年月日(昭和)	事項
11年	日本海軍、仮称「A廠」(後の光海軍工廠)と仮称「第二A廠」(後の豊川海軍工廠)の建設計画を決定
12年 7月 7日	日中戦争が始まる
13年 6月 1日	新設工廠用地に本野ヶ原を選定
14年 3月	仮称「第二A廠」の建設を開始
12月15日	豊川海軍工廠開庁式。初代工廠長は神保勉一少将
15年 4月	豊川海軍工廠工具養成所(仮校舎)開校
12月23日	豊川海軍共済組合病院(後の豊川海軍共済病院)竣工
16年 4月21日	二代目工廠長、相馬六郎少将(後に中将)着任
12月 8日	対米英宣戦布告(太平洋戦争勃発)
15日	新たに光学部を開設
18年 6月 1日	豊川・牛久保・国府の三町と八幡村が合併し、豊川市が誕生
9月 1日	新たに指揮兵器部を開設
11月 1日	三代目工廠長、清水文雄少将(後に中将)着任
19年 4月15日	新たに器材部を開設
8月23日	女子挺身勤労令公布・施行
11月23日	米軍機、工廠を上空より撮影。工廠に爆撃を行う際の効果を分析
20年 5月19日	工廠初の被爆。指揮兵器部第一機械工場付近が被弾。30余人の犠牲者がたつという。
7月 1日	工廠上空から多数のビラ(伝單)がまかれる
15日	工廠にP51(ムスタング)来襲。銃架工場被弾し負傷者あり
24日	工廠上空から多数の降伏勧告ビラ(伝單)がまかれる
8月 6日	広島に原子爆弾投下される
7日	豊川海軍工廠被爆。米軍B29爆撃機124機などによる爆撃を受け事実上壊滅。死者は2千5百人以上、負傷者は1万人以上とされる
9日	長崎に原子爆弾投下される
15日	戦争終結がラジオ放送で発表される
10月 6日	豊川海軍工廠解散式



▶ 交通案内

電車 ○名古屋鉄道豊川線「諏訪町」駅下車 徒歩で約15分 / 名古屋鉄道本線「国府」駅下車 タクシーで約15分 / JR飯田線「豊川」駅下車 タクシーで約10分
バス ○豊橋鉄道豊川線「心道駅前」下車 徒歩で約15分
車 ○東名高速道路「豊川IC」から7km 車で約20分
東名高速道路「音羽蒲郡IC」から9.9km 車で約20分(駐車場無料)
※土日は混雑が予想されるため、公共交通機関の利用や乗合せにご協力ください。

▶ お問合せ先

豊川市 市民部 文化振興課

〒441-0192 豊川市小坂井町大堀10番地(小坂井庁舎内)
TEL (0533)78-4588 / FAX (0533)78-3411
<http://www.city.toyokawa.lg.jp/shisetsu/bunkakyoiku/sakuragaokamuseum/index.html>